

間野英二著

『バーブル——ムガル帝国の創設者——』

(世界史リブレット 人 046)

山川出版社 二〇一三・四刊

A5 九六頁 八〇〇円

本書は、山川出版社の「世界史リブレット 人」シリーズ中、最初に出版された五冊のうちの一冊で、日本初のバーブルの伝記である。バーブルとその時代、そして何よりも、バーブルの回想録『バーブル・ナーマ』研究の世界的権威である間野英二氏によるバーブル伝が、一般読者も手に取りやすい形で出版されたのは画期的なことと言えよう。

冒頭の「本を手を持つ君主」において、本書は「バーブルの時代の政治情勢、彼のおりおりの心境と彼の波乱に満ちた生涯、彼が文人として残した諸作品と彼の人間性、そして彼が背負った時代性」を扱うと説明されており、これらのそれぞれに一章が割かれた構成になっている。冒頭ではまた、バーブルの簡単な経歴が紹介され、文人としても活躍したという特徴が強調される。ここでは、カバー表の、庭園で本を読むバーブルの肖像画が効果的に用いられている。この肖像画はバーブルの風貌を良く捉えたものと考えられ、間野英二氏による『バーブル・ナーマ』校訂本の表カバーにも掲載されている。

「バーブルの時代の政治勢力」は、バーブルが密接な関わりを

持ったティムール朝、モグル・ウルス、ウズベク・ウルス、サファヴィー朝、ローデイー朝についての解説のために設けられた章である。当時、中央アジアからインドにかけての地域で活動していた政治集団間の複雑な関係が分かり易くまとめられている。

次の「バーブルの生涯」では、中央アジア時代、アフガニスタン時代、インド時代と時代順に区切って、バーブルの波瀾万丈の人生が述べられる。この区切りは、『バーブル・ナーマ』でのバーブル自身による区分けに従ったものである。「文人としてのバーブル」は、最も専門性が高い章である。本書でもふんだんに引用されている『バーブル・ナーマ』の記述の特色、構成や言語、校訂本と翻訳、また、バーブルのその他の著作の内容や出版状況についての解説が含まれている。「バーブルの人間性とその時代性」では、冬のヒンドウクシュ越え、息子フマーユーンへの手紙、抵抗した敵の首で塔を建てるといった印象的なエピソードを通して、バーブルの性格が描かれる。最後は、バーブルによるアフガニスタンの美しい春の描写の引用と、長年の内戦で荒れ果てた現在のアフガニスタンの復興への願いで締めくくられている。

最後に個人的な感想を述べることをお許しいただきたい。京都大学文学部で学んだ筆者は、本書の随所で、学生時代の講義の情景をありありと思い出すことができた。当時は十六世紀の中央アジアのことなど何ひとつ知らなかったが、『バーブル・ナーマ』の魅力語る間野先生の実に楽しそうな様子は、学問の楽しさを体現した姿のように思われた。筆者にとって、本書は学問への誘いと幸福な再会であった。本書を通して、多くの人々が学問の楽

しさを味わうことを願う。

(二宮文子)